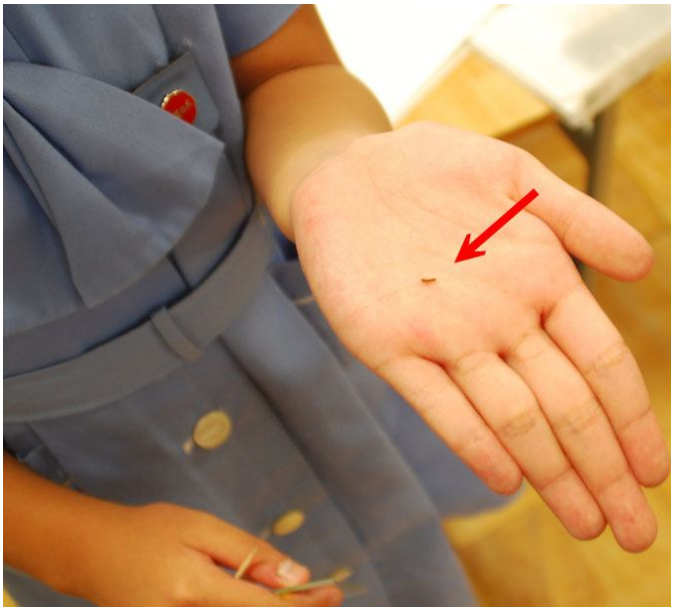
「日々の理科」(第 1213 号)　2017 (H29),11,-1

「教室で昆虫採集（１）」

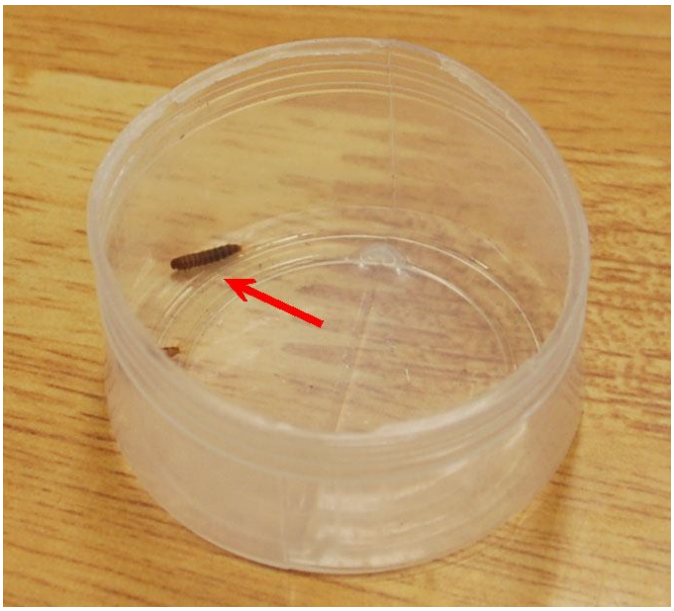
お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

（１）教室の小さな幼虫

「先生、教室にちっちゃい幼虫がいました！ちょっとかわいい感じなんですけど、あんまり動きません」



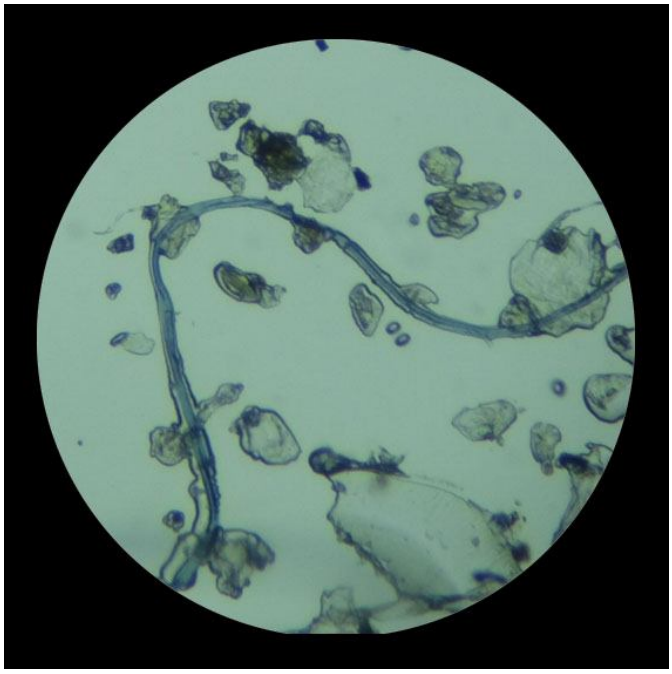
どうも、教室の床板の隙間を楊枝を使って掃除をしていたらしい。これはその虫を見なくても同定できる。「ヒメカツオブシムシ」である。



わざわざ私のところに持ってきてくれたので、容器に入れて観察してみた。やはりヒメカツオブシムシの幼虫だった。脱皮した抜け殻でない証拠に、盛んに動いている。床板の隙間なんて、最も栄養分の少なそうな場所に生息しているのには、ちゃんとわけがある。

（２）粗食や絶食に耐えるヒメカツオブシムシ

ヒメカツオブシムシ *Attagenus japonicas* は甲虫なので、完全変態をする。上写真は教室で見つかった成虫で、大きさは 5mm ほどだ。カブトムシのメスを縮小コピーした感じだ。幼虫は衣類(特に天然繊維の羊毛や絹)を食べる。従って産卵も衣類上である。幼虫の期間が異常に長く、200 日を超えることもあるという。しかも、何か月もの絶食にも耐えるというから、何ともたくましい幼虫である。教室の床板の隙間にいるのは、そこにも栄養になるものがあるからだ。



上の写真は、「教室のホコリ」の顕微鏡写真である。鉱物（砂）の粒に混ざって、青っぽい繊維が多数見つかる。これは、子どもたちの制服の布から落ちた繊維である。こうしたものに、食べ物（給食やお弁当）が落ちたものの一部、髪の毛などが混ざって、床板の隙間を埋めているのだろう。その「粗食」が、ヒメカツオブシの幼虫を生き長らえさせているにちがいない。